

2018 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第5戦  
ツインリンクもてぎ  
2018年8月18日(土)

予選 観客: 16,500人 天候: 曇り

全日本スーパーフォーミュラ選手権第5戦は、ツインリンクもてぎに舞台を移して開催された。今回、レギュラードライバーの中嶋一貴が、世界耐久選手権シリーズ(WEC) 出場のために欠場。代わって、2010年 シリーズチャンピオンのJ-P デ オリベイラがステアリングを握った。ジェームス・ロシターは、Q1で敗退となり17番手グリッド。J-P デ オリベイラは、Q2へ進出したものの13番手グリッドから決勝をスタートすることとなった。

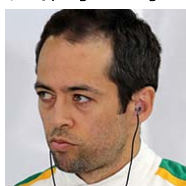


- ミディアムタイヤの使用が義務付けられている Q1 において、2 セットのタイヤを用いてタイムアタック。ロシターはセッション終盤のアタックの際、前にペースの遅いマシンがいたため思うようにタイムアップできず、Q1で敗退してしまった。
- 金曜日そして、土曜日のフリー走行の2セッションを走っただけのJ-P デ オリベイラは、手堅くQ2進出を果たしてみせた。今までにツインリンクもてぎで、4回のポール to ウィンを達成している実力を示した。
- Q3進出を目指してアタックしたJ-P デ オリベイラは、Q1のタイムから約0.9秒タイムアップしたものの、約0.7秒及ばず進出は果たせなかった。

Driver	Car No.	Q1	Q2	Q3
J-P デ オリベイラ	36	P13 1:33.259	P13 1:32.613	
ジェームス・ロシター	37	P17 1:34.014		

天候	曇り/ドライ	
気温/路面温度	気温 32-32度C	路面 42-41度C

ジョアオ パオロ デ オリベイラ (36号車ドライバー)



「現状のスーパーフォーミュラのレベルの高さは十分わかっている。僅かな走行時間を経て予選に臨み、なんとか Q2に進めたことに満足している。チームのパフォーマンスの高さのおかげだ。ブレーキングでもう少しタイムを縮めることができたかもしれないが、それで Q3に進出できたかどうかは定かではない。決勝では、チームと共に最良の作戦で順位をできるだけ上げてフィニッシュしたい」

ジェームス・ロシター (37号車ドライバー)



「ツインリンクもてぎにきてから、何故かピーク・グリップを感じる事ができなくて、苦しい走行が続いていた。それでも、少なくとも Q2へ進出できる自信はあった。2 セット目のミディアムタイヤをセットして、タイヤを温めてアタックに入ったら、スローカーとの間合いを上手くとることができず、そのままタイムアップできずにセッションが終わってしまった。残念だ。17番手からの決勝は、かなりハードなレースになるが全力を尽くす」

小枝 正樹 (36号車エンジニア)



「丸一年以上のブランクを経てのドライブにも関わらず、Q1突破は、さすがですね。しかし、まだ攻め切れていないと本人もコメントしていました。リミットを探りつつ、その手前でリスクを犯さないで走行している状況ですね。競争のレベルがとてつもなく高いスーパーフォーミュラですから、簡単ではないのは当然。何とかポイントゲットを目指します」

東條 力 (37号車エンジニア)



「金曜日からセッションごとにセットアップを大きく変えて何とかタイムアップしようと努力してきましたが、結局は持ち込みのベースセットアップが一番良いという結果でした。予選では、スローカーに引かからなければ、Q2へは進出できたと思いますが、その先はというと、はっきり言ってまだパフォーマンスが低いというのが現状です。スターティンググリッド後方からどこまで順位を上げることができるか。頑張るしかないですね」

館 信秀 (チーム監督)



「J-P(デ オリベイラ)の仕事には、満足しています。だってワンシーズンのブランクがあっても Q2へ進出してくれた。さすが彼は速さを持っている。一方のジェームス(ロシター)は、今回も不発。19台中の17番手。一体どうしてしまったのだろう。いろいろと原因はあるだろうけれど、この状況をなんとか打開しなくてはならない」

2018 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第5戦  
ツインリンクもてぎ  
2018年8月19日(日)

**決勝** 観客: 20,500人 天候: 曇り

全日本スーパーフォーミュラ選手権第5戦の決勝において、VANTELIN TEAM TOM'Sの37号車のジェームス・ロシターは、17番手グリッドから52周レースの序盤から一気に順位をアップ。ピットインのタイミング前には一時3位を走行。最終的には9位フィニッシュした。36号車のJ-P デオリベイラは、5周目あたりから、時折シフトダウンができないトラブルに見舞われてしまった。それでも力走して、ラップダウンされることなく18位で中嶋 一貴の代役を終えた。



- J-P デオリベイラは、ミディアムタイヤ、ロシターはソフトタイヤを装着してレースをスタート。
- 好スタートを切ったロシターは、スタート直後から果敢に前車をパスして順位をアップ。1周目の3コーナー手前で起きたアクシデントにも巻き込まれることなく、9ポジションをアップして8位に躍進した。
- 9周してJ-P デオリベイラは、ピットイン。タイヤをソフトに交換、給油して再びレースに復帰した。しかし、すでにミッションのトラブルが時折出て思うように順位をアップすることはできないでいた。
- ロシターは、10位近辺の順位争いをし、35周してピットイン。ミディアムタイヤへ交換、給油してポイントゲット圏内を目指してコースイン。ポイントゲットができる8位まで、わずか1秒29秒及ばず9位フィニッシュでレースを終えた。

Driver	Car No.	Position/ Best Lap Time
J-P デオリベイラ	36	P18 1:35.467
ジェームス・ロシター	37	P9 1:36.766

天候	晴れ/ドライ	
気温/路面温度	気温 30-28度C	路面 40-35度C

**ジョアオ パオロ デ オリベイラ (36号車ドライバー)**

「5周目あたりからシフトダウンしようとしてもできなくなる状態が時々あった。5速からシフトダウンしてコーナリングしようとしても5速のままコーナーをクリアしなくてはならないことがあった。早めのピットインから順位アップする作戦は、トラブルのために実行できなかった」

**ジェームス・ロシター (37号車ドライバー)**

「チームのおかげで、ソフトのクールドタイヤのパフォーマンスがもの凄く良かった。スタートが最高に良くて2台くらい抜けたかな。その後も一つのコーナーで2台を一気にパスしたり、レース序盤は、ドライブしていて本当に楽しかった。その後、少しペースが上がらなかった。それがポイントを獲得できなかった原因かな。状況は良くなってきた。次戦では、もっと上を狙いたい」

**小枝 正樹 (36号車エンジニア)**

「レースの序盤にトラブルが出てしまい、全く良いところがなく終わってしまいました。それでも、トラブルが出ない周回には、さすがに良いタイムを刻んでくれました。結果は18位ですが、彼との仕事で、今後の一貴選手のセットアップに活かせるものがあるかなと思います。残り少なくなったシーズンですが、なんとか勝利を目指したいです」

**東條 力 (37号車エンジニア)**

「やっと、やっと少し良くなった。2周目までに8位までアップしてくれたのは良かったのですが、その後ペースが良くなかった。ソフトでスタートしているのだからもっと、もっと頑張ってくれていれば、ポイントは獲得できたはず。そして、予選の順位がもっと良ければ、大きく決勝の結果も良くなるわけですから、次戦は予選ですね。パフォーマンスがアップしてくれば、もう一段階上のセットアップを施して、もっと速さを増すことができると思います。今回の好走がキッカケになって、次戦では、少なくともポイントを獲得したいです」

**館 信秀 (チーム監督)**

「まずは、J-P(デオリベイラ)に感謝するとともに、トラブルで思うように走れなかったようで、申し訳なかった。難しい状況下でも完走を果たしてくれた。さすがだね。そしてジェームス(ロシター)がやっと彼らしい順位アップでフィニッシュ。レース後にエンジニアとの話で、<これ>というものが見つかったと報告受けています。残り2戦でトムスらしいレースがしたい」

※次戦は、9月8-9日に、岡山県の岡山国際サーキットにて、シリーズ第6戦が開催されます。